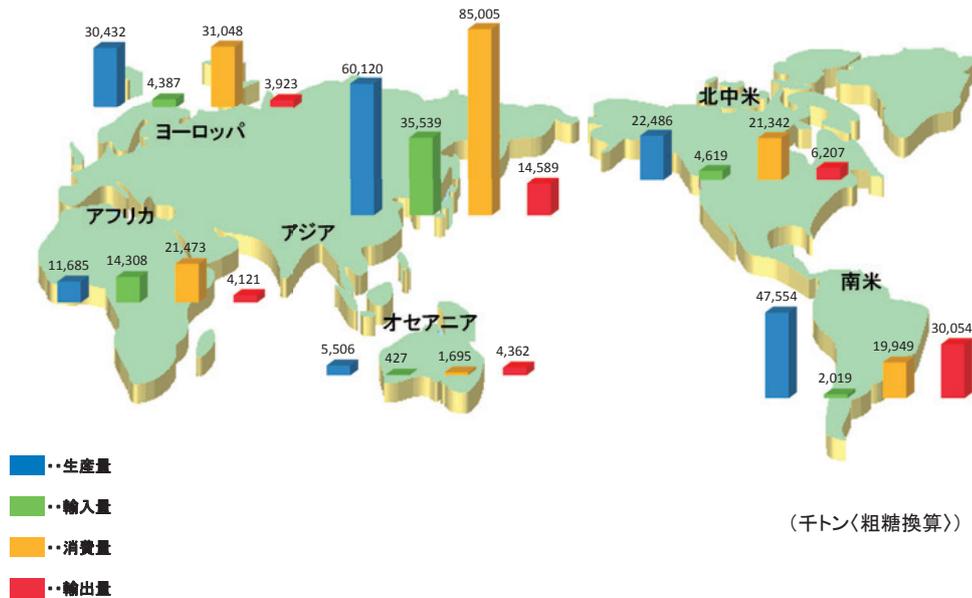


砂糖の国際需給

調査情報部 丸吉 裕子

1. 世界の砂糖需給 (2017年6月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2016/17年度予測値)



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,June 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)
 注1：年度は2016年10月～翌9月。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,399	151,603	49,849	161,832	50,974	60,045	37.1
2012/13	64,157	184,162	59,150	171,679	61,545	74,245	43.2
2013/14	74,245	181,494	58,461	175,710	59,205	79,286	45.1
2014/15	79,286	180,704	58,414	178,554	59,538	80,313	45.0
2015/16	80,313	174,636	63,493	179,757	66,414	72,271	40.2
2016/17 (2017年3月予測)	71,005	177,958	58,575	181,009	61,027	65,503	36.2
2016/17 (2017年6月予測)	72,271	177,783	61,300	180,512	63,257	67,586	37.4

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, June 2017」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2017年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2017年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001527.html

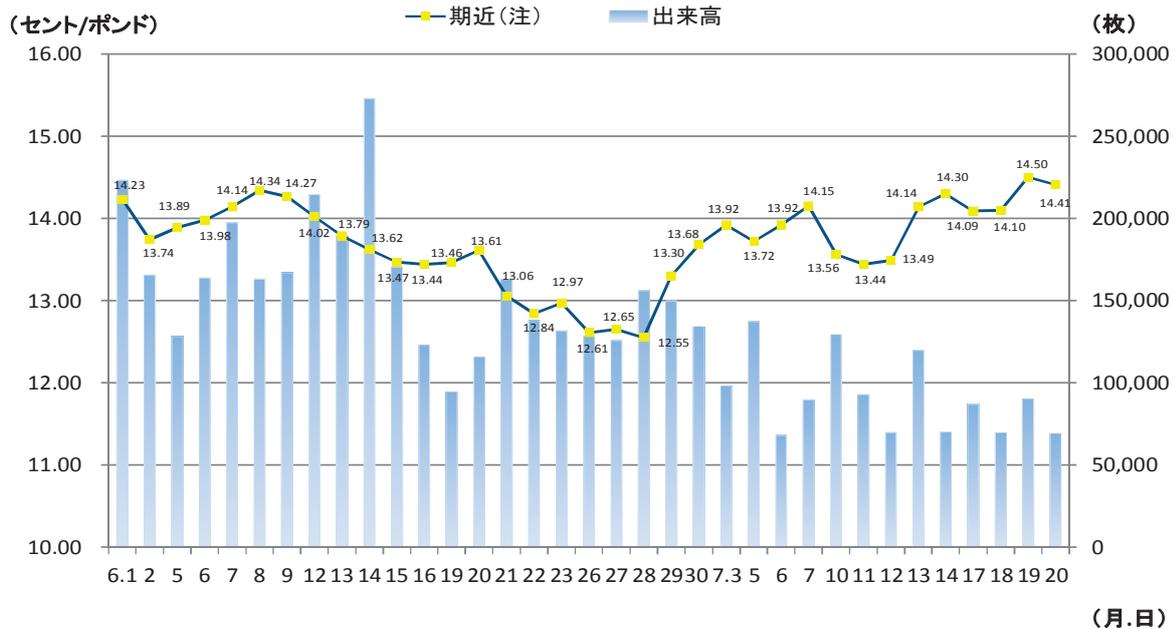
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001528.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き (6/1 ~ 7/20)

~1ポンド当たり12.55セントまで下落するも、レアル高などから同14.50セントまで上昇~

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：6月は期近7月限、7月は期近10月限。

ニューヨーク粗糖先物相場（期近7月限）の2017年6月の推移を見ると、2日には1ポンド当たり13.74セントに値を下げ、2016年2月以来の安値を更新した。その後、8日には同14.34セントまで戻したが、国際砂糖需給に緩和の見通しが強まったことや、ブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA) (注) が発表した同国中南部のサトウキビ圧搾実績の減少幅が、前月よりも縮小したことなどから、16日には同13.44セントまで落ち込むも、20日には小幅ながら反発し、同13.61セントとなった。しかし、同国中南部の順調なサトウキビ圧搾作業などから、28日には同12.55セントまで値を下げた。その後は、納会を控えて買いが加速したことなどから急

反発し、30日には同13.68セントの値を付け、7月限は納会した。

10月が限月となる7月に入ると、11日には、インドが砂糖の輸入関税を引き上げたことを受け、同13.44セントに下落したものの、ブラジル通貨レアルが米ドルに対し高値で推移したことに伴い、13日には同14.14セントに反発した。14日以降、ブラジルのサトウキビ生産地での霜害が懸念されたことなどから19日は同14.50セントの値を付け、20日は同14.41セントとなった。

(注) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年7月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）

生産量：6億4763万トン（同1.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4070万トン（同0.4%増）

輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する大手民間調査会社）の2017年7月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、905万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加が見込まれている。しかし、サトウキビの新植が進まず単収が低下したため、生産量は6億5718万トン（同1.3%減）とわずかな減少が見込まれている（表2）。

一方、砂糖生産量は、国際砂糖価格の上昇により、企業がサトウキビを砂糖へ仕向ける割合が増加したことに加え、製糖歩留まりが向上していることなどから、4053万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）、同15.2%増とかなりの増加が見込まれている。こうした砂糖の増産に伴い、輸出量は過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少するものの、生産量は単収の向上から、6億4763万

トン（同1.5%減）の減少にとどまると見込まれている。

砂糖生産量も、4070万トン（同0.4%増）と前年度並みにとどまると見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、単収の向上が予想されているためである。輸出量については、国際的な砂糖の輸入需要の緩やかな減少に伴い、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

なお、UNICAが発表した2017年4～6月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は1億9875万トン（前年同期比7.8%減）とかなり減少したものの、砂糖生産量は1105万トン（同0.3%減）と前年度並みとなった。同報告によると、エタノール生産量も、761万キロリットル（同14.3%減）とかなり減少した。輸出量も含めたエタノールの販売量は、597万キロリットル（同13.9%減）となった。このうち、含水エタノール^(注)の国内販売量は、ブラジル国営石油公社ペトロブラスがガソリン平均卸売価格を引き下げ、含水エタノールのガソリンに対する優位性が低下していることから、325万キロリットル（同17.0%減）と大幅に減少した。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、6月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.27リアル（77円〈6月末日TTS：1リアル=34円〉）と前年同月水準であった一方、ガソリン小売価格は同3.33リアル（113円）と前年同月の3.46リアル

(118円) に比べ、下落している。

国内のエタノール生産量の減少などにより、米国からのエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAはエタノールの輸入関税（16%）の再導入を政府に要請しており、北東部の砂糖エタノール製造企業も国内産業の保護を政府に求めている。しかし、政府は、関税を再導入した場合、国内のエタノール価格が高騰し、世界のエタノール貿易に影響を与えることから、慎重に検討することとしている。

なお、現地報道によると、政府は、バイオ燃料の需要拡大のため、ガソリンに対する燃料税（CIDE）について、2017年から2年連続で引き上げるとみられる。

また、ブラジル国家水資源局が先ごろ公表した調査結果によると、2015/16年度の中南部地域のサトウキビ圃場^{ほじょう}でかんがいが行われた面積は172万ヘクタールで、全体の17%程度にとどまった。また、サンパウロ州が13%、ミナス・ジェライス州が34%、ゴイアス州が35%と、州ごとに差が見られた。

(注) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

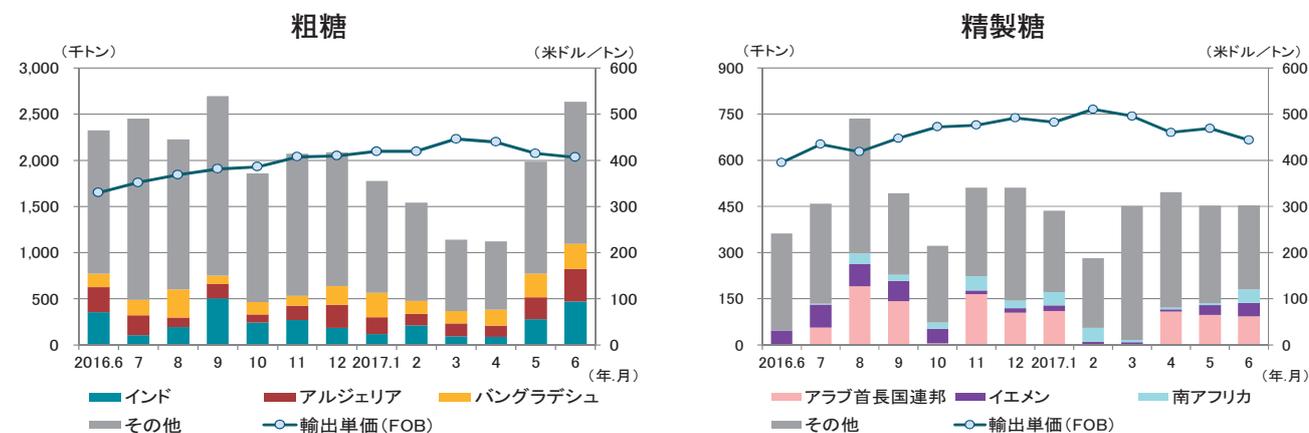
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (6月予測)	2016/17 (7月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (6月予測)	2017/18 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,049	9,049	4.6	8,839	8,839	▲ 2.3	
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	657,184	657,184	▲ 1.3	647,626	647,626	▲ 1.5	
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,534	40,534	15.2	40,700	40,700	0.4
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	11,800	11,700	11,700	▲ 0.8	11,800	11,800	0.9
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,740	28,740	14.4	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	813	906	906	11.5	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	18.2	20.5	6.9	7.7	7.7	12.4	9.4	9.4	21.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, July 2017」

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）

生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2210万トン（同19.3%減）

輸出量：202万トン（同50.9%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。さらに、砂糖生産量も、2210万トン（同19.3%減）と製糖歩留まりの低下により大幅な減少が見込まれている（表3）。インド砂糖製造協会（ISMA）が3月初旬に発表した見通しによると、1～2月にかけてマハラシュトラ州やカルナタカ州などで当初の予想以上に単収が低下していることなどから、同年度の砂糖生産量は、精製糖換算で2030万トンと見込まれている。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図るため、2016年6月中旬以降、砂糖の輸出（粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く）に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、2017年4月中旬には、貿易業者に対する砂糖在庫量の上限の設定期限を2017年4月末から同年10月末まで延長することを公表した。これらにより、砂糖輸出量は、202万トン（同50.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、国際価格の下落や中央政府が先ごろ粗糖50万トンについて無税での輸入を許可^{（注）}したことから、輸入粗糖を原料とする精製糖生産の利益が増加するとみられていることなどから、砂糖輸入量は、310万トン（同62.9%増）と大幅に増加すると見込まれている。しかし、中央政府は7月10日、砂糖の輸入関税を40%から50%に引き上げた。中央政府は6月中旬、ISMAから、国際価格の下落に伴う砂糖の輸入増加による国産糖の需要低下を懸念し、砂糖の輸入関税を40%から60%まで引き上げるよう要請されていたとされる。こうしたことから、輸入量については、今後下方修正される可能性がある。

ISMAは7月中旬、6月の観測結果を基にした2017/18年度の生産予測を公表した。これによると、砂糖生産量は精製糖換算で2510万トン（同23.6%増）と大幅な増加が見込まれている。これは、主要生産地の多くで干ばつからの生産回復が見込まれるためである。州別に見ると、ウッタルプラデシュ州は995万トンと全体の4割を占め、マハラシュトラ州は740万トンと見込まれている。

（注）当該措置は、干ばつにより砂糖生産量が大幅に減少する中、消費量を下回ると見込まれること、また、マハラシュトラ州の製糖企業による再輸出用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどを受けて実施されたものである。

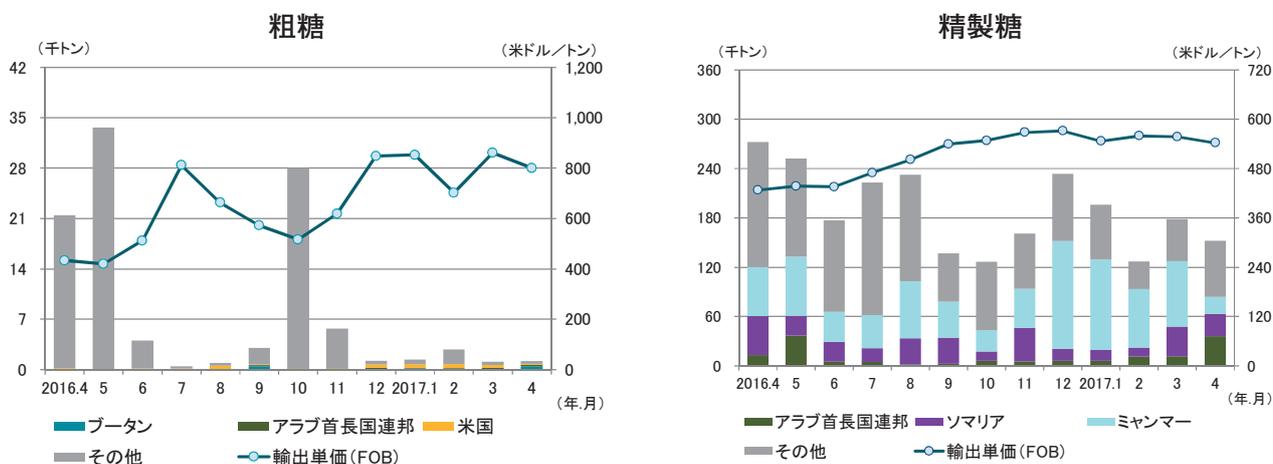
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (6月予測)	2016/17 (7月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	22,100	▲ 19.3
	輸入量	1,349	1,303	1,904	1,770	62.9
	消費量	26,295	27,842	27,011	26,304	▲ 2.6
	輸出量	2,742	2,608	4,105	1,785	▲ 50.9
	期末在庫量	8,223	9,692	7,851	3,633	▲ 39.7
	期末在庫率	31.3	34.8	29.1	13.8	▲ 38.1

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, July 2017]

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha (前年度比10.0%増)・15万ha (同10.0%増)
生産量：1億2652万トン (同7.9%増)・771万トン (同5.0%増)

【砂糖 (甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：1010万トン (同6.7%増)
輸入量：451万トン (同27.2%減)

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度 (10月～翌9月) は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール (前年度比10.0%増)、生産量が1億2652万トン (同7.9%増) と、ともにかなりの増加が見込まれている (表4)。これは、最大生産地域である広西チワン

族自治区や海南省における栽培面積の増加と良好な生育状況が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール (同10.0%増) とかなり増加し、生産量は771万トン (同5.0%増) とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、

1010万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）が発表した2016/17年度の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で929万トン（同6.8%増）とかなり増加した（図3）。これは、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しゃ糖が824万トン（同5.0%増）、てん菜糖が105万トン（同23.2%増）と、ともに増加したことによる。

さらに、中央政府は2016年10月以降、入札により備蓄砂糖を国内企業へ売り渡しており、1月時点で合計約65万トンが市場に放出された。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。

こうした中、中央政府は5月22日、2016年9月から実施した砂糖の輸入先国によるダンピング疑惑の調査（注1）の結果を踏まえ、2017年5月22日から2020年5月21日までの3年間、WTO協定に基づく関税割当（194万トン、関税率15%）の枠

外で輸入される砂糖の関税率を、現行の50%から95%まで引き上げることが公表した（注2）。このため、砂糖輸入量は、451万トン（同27.2%減）と大幅な減少が見込まれている。枠外関税率は、毎年度5%ずつ引き下げられる予定であるが、ミャンマーなどからの「非公式な」砂糖の流入および第三国経由での輸入量の増加が懸念されている。中央政府は2～5月、6500トン以上の「非公式に」流入した砂糖を押収しており、今後の増加を防ぐため、国境での監視を強化している。

（注1） 海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして実施した調査であり、対象は、輸入量が急増した2011年以降で、粗糖の上位輸入先国であるブラジルおよび豪州ならびに精製糖の主要輸入先国である韓国などが対象国となっていた。

（注2） 開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

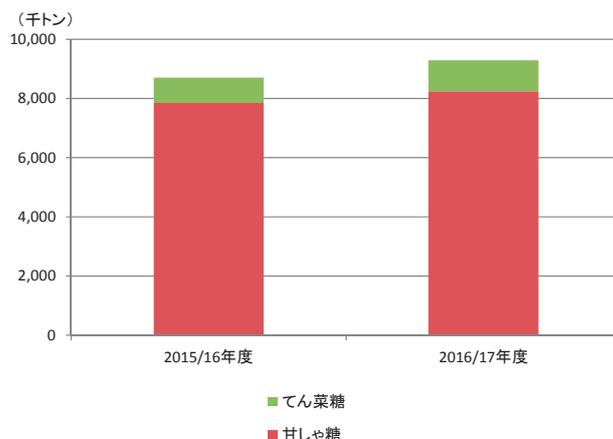
表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (6月予測)	2016/17 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,097	10,097	6.7
	輸入量	4,054	5,354	6,199	4,556	4,513	▲ 27.2
	消費量	16,150	16,600	17,283	16,739	16,739	▲ 3.1
	輸出量	51	64	167	83	97	▲ 42.2
	期末在庫量	7,141	7,305	5,513	3,344	3,288	▲ 40.4
	期末在庫率	44.2	44.0	31.9	20.0	19.6	▲ 38.4

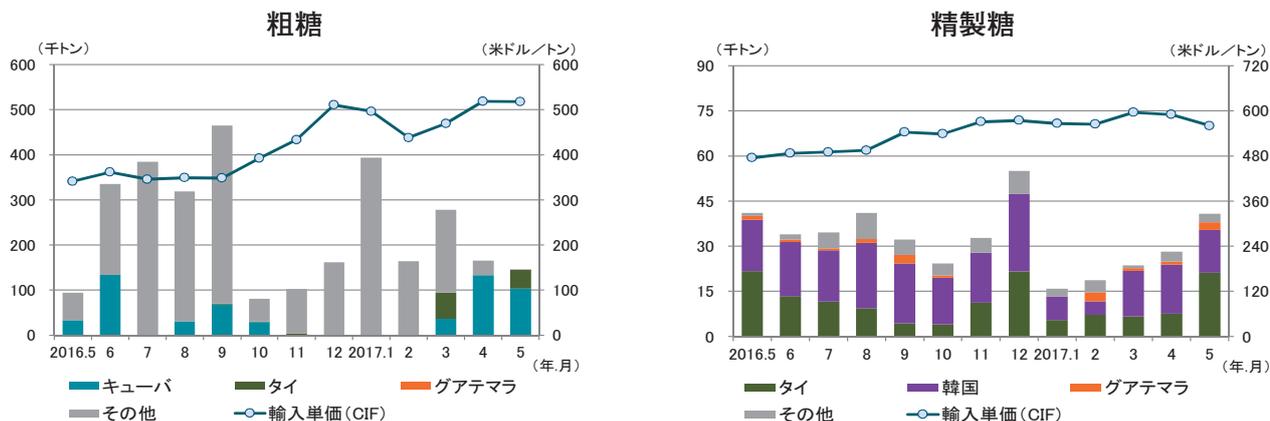
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, July 2017」

図3 中国の砂糖生産実績



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度 (10月～翌9月) の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha (前年度比10.8%増)

生産量：1億1218万トン (同6.7%増)

【砂糖 (てん菜糖)】

生産量：1694万トン (同12.8%増)

輸入量：289万トン (同23.0%減)

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度 (10月～翌9月) は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール (前年度比10.8%増)、生産量は1億1218万トン (同6.7%増) と、ともにかなりの増加が見込まれている (表5)。2017

年10月以降の生産割当廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっていた一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られていた。記録的な生産量となった前々年度に比べ、

春先の低温や降雨のため単収が低下すると見込まれているものの、前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1694万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖の増産や域内の砂糖価格の下落に伴い、砂糖輸入量は、289万トン（同23.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は7月12日、砂糖を含む農産物の短期需給見通しを公表した。これによると、2016/17年度のでん菜生産量は、1億700万トン（同5.2%増）と、この10年間で最低水準となった前年度からやや増加し、砂糖生産量は精製糖換算で1680万トン（同13.3%増）と、かなりの増加が見込まれている。

また、2017/18年度のでん菜生産量は、生産割当制度の廃止に伴い、主にベルギー、フランス、ドイツ、オランダ、ポーランドが栽培面積を大きく拡大していることから、1億2790万トン（同19.6%増）、砂糖生産量は2010万トン（同19.6%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。これに伴い、EU域内の価格が下落し、国際価格との差が拡大することから、輸入量は、150万トン（同49.0%減）と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量が増えるとともに、WTOの裁定により設けられた輸出上限が撤廃されることから、280万トン（同2倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格に対するEU価格の動向に左右されるものとみられる。

表5 EUの砂糖需給の推移

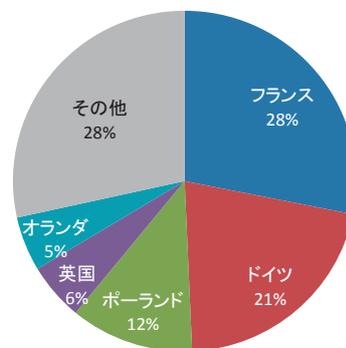
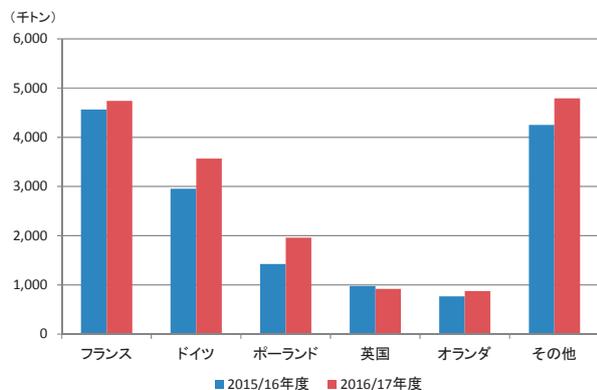
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (6月予測)	2016/17 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8	
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7	
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,011	16,938	16,938	12.8
	輸入量	3,944	3,456	3,750	2,811	2,887	▲ 23.0
	消費量	19,286	19,245	18,719	18,740	18,740	0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,298	1,230	▲ 18.3
	期末在庫量	8,799	10,599	9,135	8,845	8,990	▲ 1.6
	期末在庫率	45.6	55.1	48.8	47.2	48.0	▲ 1.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, July 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2017年6月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2017年7月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。

豪州

2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）

生産量：3556万トン（同0.2%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：531万トン（同7.5%増）

輸出量：400万トン（同0.1%増）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、 輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。5～6月に収穫されたサトウキビについては、3月に襲来したサイクロンの影響により、製糖歩留まりの低下が見られることから、砂糖生産量は494万トン（同2.2%減）とわずかな減少が見込まれている^{（注1）}。

また、輸出量も、中国向けの減少などに伴い、400万トン（同3.8%減）とやや減少が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸出量は前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれるものの、サイクロンの影響による単収の低下から、生産量は3556万トン（同0.2%増）と前年度並みにとどまると見込まれている。砂糖生産量は

531万トン（同7.5%増）とかなりの増加が見込まれているものの、サイクロンの被害状況によっては、今後下方修正される可能性がある。輸出量は、生産量が増加するものの、中国向けの需要が減少すると見込まれることなどに伴い、400万トン（同0.1%増）と前年度並みが見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が6月中旬に公表した2017/18年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は38万ヘクタール（同2.2%増）とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、砂糖生産量は、482万トン（同0.4%増）と前年度並みが見込まれている。輸出量についても、407万トン（同0.3%増）と前年度並みが見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）が発表した生産実績によると、5月下旬～7月上旬のサトウキビ圧搾量は422万トンであった。なお、ASMCは先ごろ、2017年のサトウキビ圧搾量見込みを3400万トンと発表している。

クイーンズランド（QLD）州砂糖公社（QSL）^{（注2）}は7月4日、2017/18年度以降の新たな輸出契約

に基づく砂糖の輸出見通しを発表した。これによると、QSLの砂糖輸出量は約190万トンと、豪州最大の輸出企業としての地位を維持すると見込まれている。

QSLは6月7日、Sugar Terminal Limited (STL)^(注3)と2017/18年度以降の砂糖輸出ターミナルの管理に関する新たな契約を締結した。QSL以外の企業も砂糖輸出ターミナルを利用できるようになることから、QSLは、砂糖輸出ターミナルの管理に係る機密事項や利害の対立について対処できるよう業務を物流部門と輸出部門に分割した。QSLは、今後もQLD州の砂糖産業の繁栄に資するため、ターミナルの業務を注意深く管理しつつ、コ

スト削減や管理体制の合理化に努めたいとの姿勢を示している。

(注1) 豪州の砂糖年度は7月～翌6月とされているが、例年5～6月ごろから製糖が開始される。5～6月の数量は、前年度の数量に含まれる。

(注2) QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を扱っていたが、2015年の砂糖産業法改正により、2017/18年度以降、製糖企業を介してQSLが輸出する従来の形態に加え、砂糖を輸出する企業を生産者が選択できるようになった。

(注3) QLD州内の製糖企業や生産者が出資し、六つの砂糖輸出ターミナルを所有する企業。砂糖輸出ターミナルの管理については、QSLに委託。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (6月予測)	2016/17 (7月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2	400	1.8	
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,500	35,500	1.9	35,556	0.2	
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,052	5,233	4,940	▲ 2.2	5,312	7.5
	輸入量	159	170	76	110	110	45.3	110	▲ 0.4
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,355	1,355	0.4	1,355	0.0
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,995	3,995	▲ 3.8	4,000	0.1
	期末在庫量	1,162	1,074	700	708	400	▲ 42.9	466	16.5
	期末在庫率	86.3	79.6	51.9	52.3	29.5	▲ 43.1	34.4	16.5

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, July 2017」

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）

生産量：9300万トン（同1.1%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1030万トン（同2.7%増）

輸出量：684万トン（同12.4%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、単収が低下することから、生産量は9300万トン（同1.1%減）

とわずかな減少が見込まれる（表7）。

しかし、砂糖生産量は、長引く干ばつの影響があったものの、製糖歩留まりの向上が見られることなどから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加が見込まれている。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、684万トン（同12.4%減）とか

なりの減少が見込まれている。

タイ製糖協会によると、5月3日までに2016/17年度のサトウキビの圧搾が終了し、同年度のサトウキビ圧搾量は9295万トン（同1.2%減）とわずかに減少した。干ばつの影響によるサトウキビの減産に伴い、サトウキビ圧搾量が前年度比で8%減少した工場も見られた。

政府は現在、砂糖産業関連法の改正（注1）に向けた手続きを行っている。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式、販売割当（注2）、および政府が設定している国内砂糖価格は廃止されるとみられる。

現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）（注3）は5月中旬、各製糖企業に対し、国内供給用に、生産量の一定割合を常に在庫として

確保するよう求めること、今後は、OCSBが国際価格を基に算出した基準価格を発表することなど、改正の方向性について関係者間で合意に達したと明らかにし、改正法は11月までに施行される見込みであるとした。

（注1）タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。

（注2）タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

（注3）タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

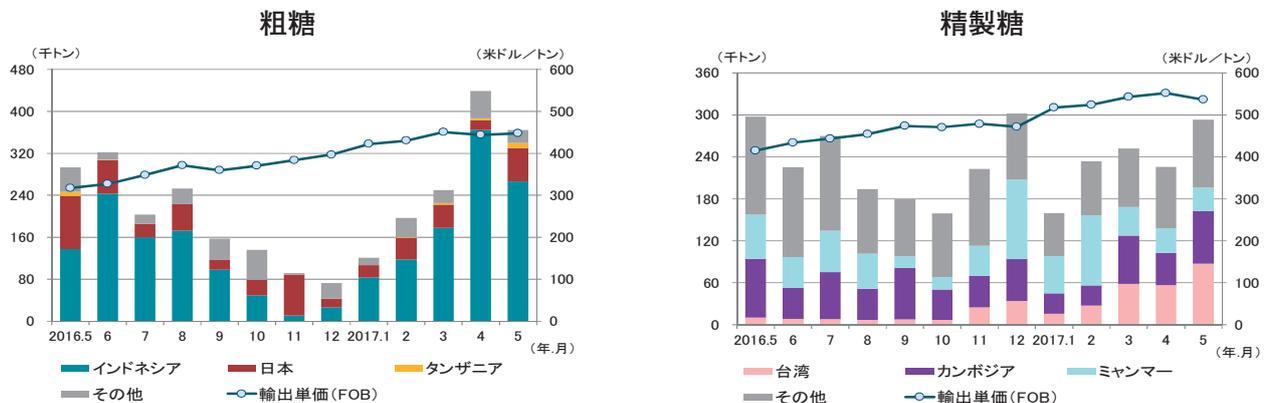
表7 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (6月予測)	2016/17 (7月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	93,000	93,000	▲ 1.1
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,295	2.7
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,076	▲ 12.4
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	4,227	▲ 1.0
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	120.8	▲ 1.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, July 2017」

（参考） タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

南アフリカ

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：31万ha（前年度比5.9%増）

生産量：1719万トン（同5.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：180万トン（同10.2%増）

輸出量：30万トン（同37.9%増）

2016/17年度の砂糖生産量はやや減少、輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、29万ヘクタール（前年度比4.2%減）、生産量は1623万トン（同4.9%減）と、ともにやや減少が見込まれている（表8）。

砂糖生産量は、2014/15年度から続く干ばつの影響による製糖歩留まりの低下から、163万トン（同5.4%減）とやや減少が見込まれている。2015/16年度から砂糖の消費量が生産量を上回る状況が続き、在庫量が減少していることから、輸出量は22万トン（同29.1%減）と大幅に減少し、過去最低を記録すると見込まれる。

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、輸出量は大幅増の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、31万ヘクタール（前年度比5.9%増）、生産量は1719万トン（同5.9%増）と、ともにやや増加が見込まれている。干ばつ被害から回復し、平年並みの降雨が予

想され、サトウキビが順調に生育することで、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、砂糖生産量は180万トン（同10.2%増）とかなりの増加が見込まれている。これに伴い、輸出量も30万トン（同37.9%増）と大幅に増加するものと見込まれている。

なお、4月に開始予定であった糖類を含む飲料への課税^(注)は、南アフリカ砂糖協会など業界団体の反対を受けて延期されている。業界団体は、課税がもたらす社会的経済的影響に関する分析に加え、砂糖の輸出や工場でのバガス発電の推進といった代替となる砂糖産業振興策を行わずに課税を行うべきではないと主張している。南アフリカサトウキビ生産者協会が先ごろ発表した試算では、課税により5800人以上の雇用が失われ、生産者収入が15～30%減少するとしている。

(注) 2月の南アフリカ財務省の発表によると、課税対象は、100ミリリットル当たり4グラム以上の糖類を含む飲料で、この飲料に含まれる糖類10グラム当たり0.21ランド（2円〈6月末日TTS：1ランド＝10円〉）が課税される予定とされていた。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (4月予測)	2016/17 (7月予測)	前年度比 (増減率)	2016/17 (4月予測)	2017/18 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	325	325	302	289	289	▲ 4.2	306	306	5.9	
サトウキビ生産量	18,000	17,239	17,067	16,234	16,234	▲ 4.9	17,188	17,188	5.9	
砂糖	生産量	2,485	2,239	1,728	1,700	▲ 5.4	1,800	1,800	10.2	
	輸入量	812	474	470	705	749	59.3	475	475	▲ 36.6
	消費量	2,255	2,200	2,220	2,215	2,190	▲ 1.4	2,200	2,200	0.5
	輸出量	796	769	307	235	218	▲ 29.1	300	300	37.9
	期末在庫量	889	633	304	259	280	▲ 8.0	34	55	▲ 80.4
	期末在庫率	39.4	28.8	13.7	11.7	12.8	▲ 6.8	1.6	2.5	▲ 80.5

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, July 2017」